



認定書

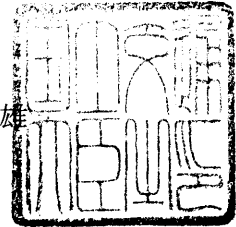
国住指第 700 号

平成 18 年 7 月 18 日

因幡電機産業株式会社

代表取締役社長 守谷 承弘 様

国土交通大臣 北側 一雄



下記の構造方法又は建築材料については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法施行令第 129 条の 2 の 5 第 1 項第七号ハ〔防火区画貫通部 1 時間遮炎性能〕の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号

PS060WL-0317

2. 認定をした構造方法又は建築材料の名称

ケーブル／モルタル・金属ダクト・ポリオレフィン系不織布付熱膨張性ロックウール・ロックウール充てん／壁耐火構造／貫通部分（中空壁を除く）

3. 認定をした構造方法又は建築材料の内容

別添のとおり

（注意） この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名

ケーブル／モルタル・金属ダクト・ポリオレフィン系不織布付熱膨張性ロックウール・ロックウール充てん／壁耐火構造／貫通部分(中空壁を除く)

2. 寸法および形状等

(寸法単位：mm)

項 目	申 請 構 造
開口部	(形状) 矩形 (面積) 0.74 m ² 以下 (1280 以下×580 以下)
占積率* ¹⁾ (断面積)	80.82%以下 (0.6 m ² 以下)
占積率* ²⁾ (断面積)	90.23%以下 (0.535235 m ² 以下)
貫通する壁の構造等	コンクリート (中空壁を除く) ・壁厚 100 以上

*1) 開口部に対する金属ダクト (外径) 断面積の割合

*2) 金属ダクト (内径) 断面積に対するケーブル総断面積の割合

3. 材料構成

1) 主構成材料

(寸法単位:mm)

項目		申請構造
総発熱量		21, 212, 742kJ/m以下
総導体断面積		0. 112747m ² 以下
規格		光ファイバケーブル以外のケーブルについては、次の規格のうち、いずれかに該当すること JIS C 3307, 3312, 3317, 3342, 3401, 3501, 3502, 3605, 3606, 3605 準拠 JCS 第 224 号, 第 271 号 A, 第 364 号 A, 第 376 号 A, 第 381 号, 第 396 号, 第 396 号 A, 第 402 号, 第 416 号, 第 418 号 B, 第 419 号 A, 第 420 号, 第 421 号, 第 422 号, 第 423 号, 第 426 号, 第 427 号, 第 4426 号, 第 4427 号, 第 4396 号, 第 5420 号, 第 5421 号, 第 5422 号, 第 5423 号, 第 4419 号 準拠, 第 4364 号 準拠, 第 5381 号 準拠 JCS C 第 68 号, 第 70 号, 第 71 号, 第 72 号, 第 74 号, 第 75 号, 第 76 号, 第 9074 号, 第 9075 号, 第 9076 号, 第 3271 号 準拠, 第 9072 号 準拠 TIA/EIA 568A, TIA/EIA 568A 準拠 平成 9 年消防庁告示第 10 号, 第 11 号
ケーブル 外径	光ファイバケーブル以外	より合わせ外径 : 85 以下
	光ファイバケーブル	より合わせ外径 : 47 以下
ケーブル 導体 断面積	光ファイバケーブル以外	325mm ² /本以下
	光ファイバケーブル	125mm ² /本以下
本数		総発熱量を各ケーブルの発熱量で除した数以下かつ総導体断面積を各ケーブルの導体断面積で除した数以下
導体種類		(1) ~ (3) のうち、いずれか一仕様とする (1) 銅 (2) アルミニウム (3) ガラス繊維 (光ファイバケーブル)
絶縁体		(1) ~ (3) のうち、いずれか一仕様とする (1) ポリエチレン系樹脂 (2) 塩化ビニル系樹脂 (3) ゴム系樹脂
シース		(1) ~ (3) のうち、いずれか一仕様とする (1) ポリエチレン系樹脂 (2) 塩化ビニル系樹脂 (3) ゴム系樹脂

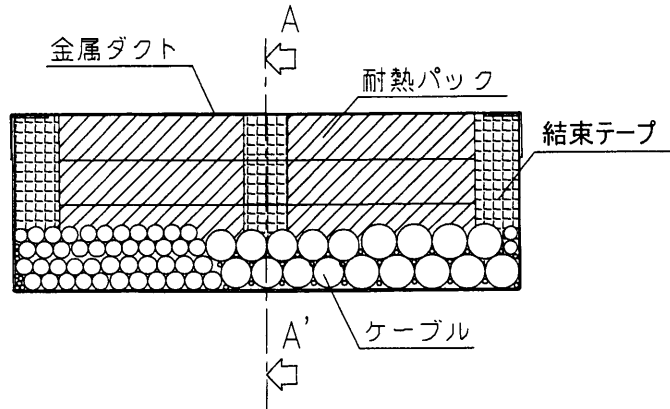
項 目		申 請 構 造		
防火措置材料	ポリオレフィン系 不織布付熱膨張性 ロックウール・ロッ クウール (以下、耐熱パック)	熱膨張性 充てん材	材質	熱膨張性ロックウール
			密度	56g/m以上
			厚さ	3以上
			幅	95以上
			長さ	1200以下
			組成 (質量%)	
		耐熱性 充てん材	材質	ロックウール
			密度	150 kg/m ³ 以上
			厚さ	19以上, 10以上(充てん部分が19より狭い場合)
			幅	95以上
	梱包紙	長さ	1200以下	
		厚さ	0.55以下	
	ポリオレフィン系 不織布付熱膨張性 ロックウール (以下、補助パット)	熱膨張性 充てん材	材質	(1)～(4)のうち、いずれか一仕様とする (1)ポリオレフィン系不織布 (2)ポリオレフィン系樹脂 (3)ポリアミド系樹脂 (4)ポリ塩化ビニル系樹脂
			密度	56g/m以上
厚さ			3以上	
幅			95以上	
長さ			1200以下	
組成 (質量%)				
梱包紙		厚さ	0.55以下	
		材質	(1)～(4)のうち、いずれか一仕様とする (1)ポリオレフィン系不織布 (2)ポリオレフィン系樹脂 (3)ポリアミド系樹脂 (4)ポリ塩化ビニル系樹脂	

(寸法単位:mm)

項 目		申 請 構 造	
防 火 措 置 材 料	結束テープ	材質	ガラスアルミニウムはくテープ
		幅	50 以上
		厚さ	0.12 以上
		間隔	350 以下
	金属ダクト	厚さ	2.0 以上
		幅	1200 以下
		高さ	500 以下
		材質	(1)～(9)のうち、いずれか一仕様とする (1) 熱間圧延軟鋼板 ・規格 JIS G 3131 (2) 冷間圧延鋼板 ・規格 JIS G 3141 (3) 溶融亜鉛めっき鋼板 ・規格 JIS G 3302 (4) 溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 ・規格 JIS G 3317 (5) クロムめっき鋼板 ・規格 JIS G 7122 (6) ステンレス鋼板 ・規格 SUS410, SUS420J1, SUS430 (7) 溶融亜鉛めっき鋼板にメラミン樹脂焼付塗装を施したもの (8) 熱間圧延軟鋼板に亜鉛めっきを施したもの (9) 冷間圧延鋼板に亜鉛めっきを施したもの
	モルタル	材質	モルタル
		充てん厚さ	100 以上

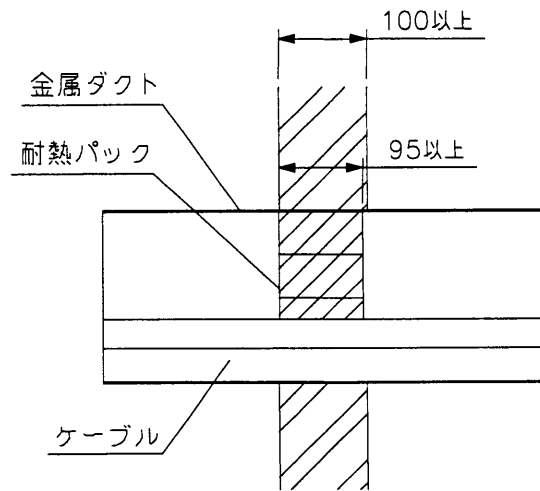
4. 構造説明図

(寸法単位：mm)



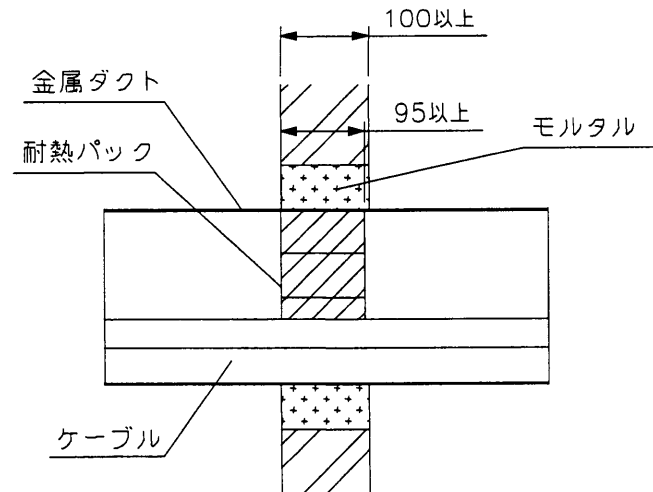
正面図

●打設の場合



A-A' 断面図

●埋め戻しの場合

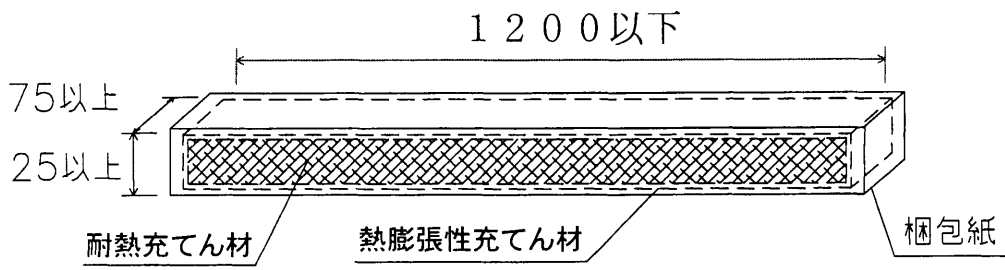


A-A' 断面図

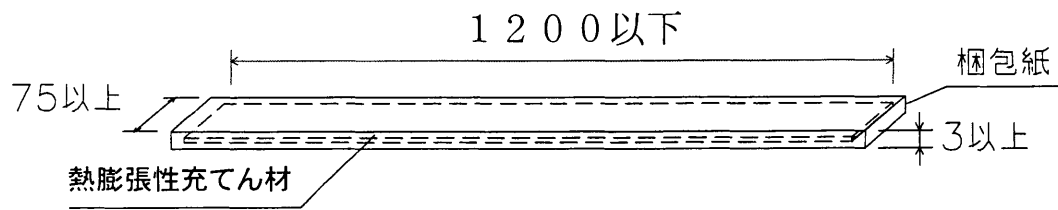
注) 寸法および材料構成は2 および3 のとおり

〈耐熱パットの詳細構造図〉

(寸法単位：mm)



〈補助パットの詳細構造図〉



※) 補助パットは隙間にあわせて、必要長さにカットして使用する。

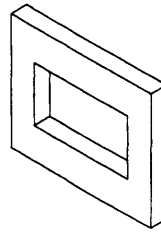
注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

5. 施工方法等

5-1. 金属ダクトをモルタルで埋め戻す場合の施工図（手順）を以下に示す。

① 開口

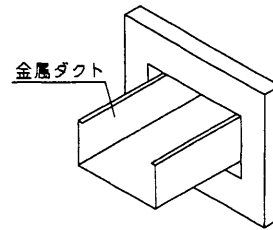
開口面積、壁厚及び占積率を考慮して開口を設ける。



② 金属ダクトの設置

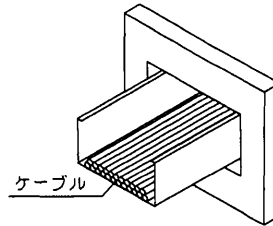
開口部に対して、金属ダクトを設置する。

（耐熱バックを施工する側については、施工しやすい位置に金属ダクトの接続端部がくるように壁面からの突き出しを調整して取付ける。）



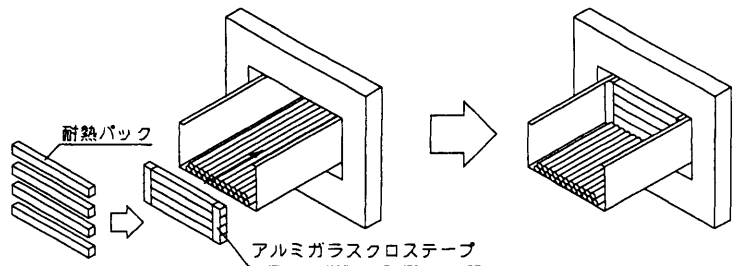
③ ケーブルの配線

金属ダクトにケーブルを配線（通線）する。



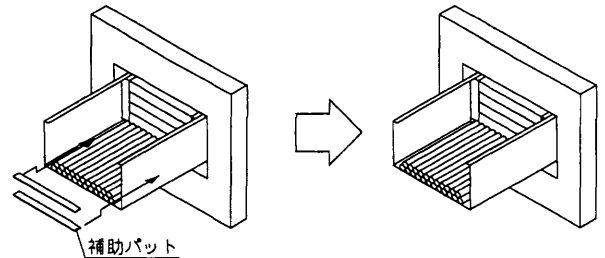
④ 熱膨張性シール材の充てん

金属ダクトとケーブルの隙間に耐熱バックをアルミガラスクロステープで結束した後、充てんする。



⑤ 小さい隙間の充てん

耐熱バックが隙間なく充てんされていることを確認し、小さい隙間が認められる場合には、耐熱バック又は補助パットを挿入する。

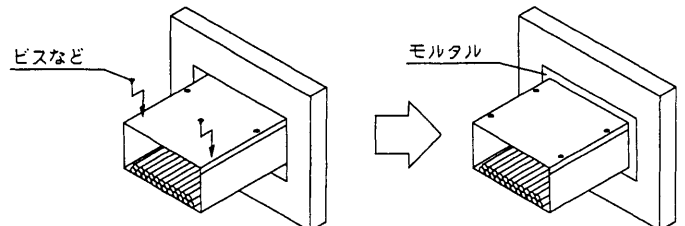


⑥ 金属ダクトのフタの取付け

及びモルタルによる埋戻し

金属ダクトにフタを取付けビスなどで固定した後、開口部と金属ダクトとの隙間をモルタルで埋戻す。

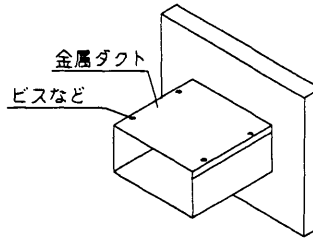
（フタの取付け作業により、耐熱バックの隙間が発生していないかを、埋め戻しを行う前に確認し、隙間が認められる場合には補助パットを挿入する。）



5-2. 金属ダクトをコンクリート打設による取付けの場合の施工図（手順）を以下に示す。

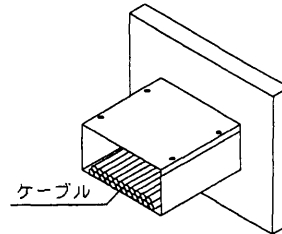
① 金属ダクトの取付け

金属ダクトにフタを取付けビスなどで固定した後、壁面に取付けコンクリートを打設する。
(耐熱パックを施工する側については、施工しやすい位置に金属ダクトの接続端部がくるように壁面からの突き出しを調整して取付ける。)



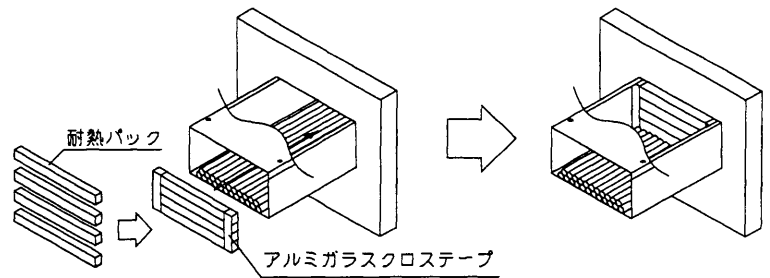
② ケーブルの配線

金属ダクトにケーブルを配線（通線）する。



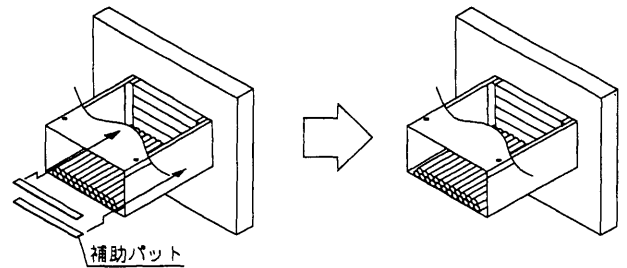
③ 熱膨張性シール材の充てん

金属ダクトとケーブルの隙間に耐熱パックをアルミガラスクロステープで結束した後、充てんする。



④ 小さい隙間の充てん

耐熱パックが隙間なく充てんされていることを確認し、小さい隙間が認められる場合には、耐熱パック又は補助パットを挿入する。



6. 注意事項

ケーブル及び金属ダクトは、火災時に過大な荷重がかかり、壁を損傷することがないように固定する。また、本構造に使用する耐熱パックおよび補助パックについては、耐久性に留意し、所定の耐火上の性能が維持されるよう適切な処理を行う必要がある。